

事業計画書

第2期（創業期）

2023年10月1日

一般社団法人みかん箱

事業使命（ミッション）

ほっとする習い事で、「ここなら通いたい」という子どもを増やすこと。

事業目的

- 就学している主に未成年者が安心して過ごせる居場所となる施設を運営する
- 挫折や失敗を繰り返せる機会、偶発的な体験や学習ができる機会を提供する
- ナナメの関係、インフォーマルな関係で、他者と交流を図る機会を提供する
- 自己肯定感、人や社会と関わる力など、将来の自立に向けた力を育む

役員紹介

代表理事 佐々木 悟

医療法人道南勤労者医療協会 理事長

労災医療の専門家として地域医療に従事する傍ら、若者の起業支援や後進の教育指導に力を入れている。みかん箱では子ども・地域・安心をテーマに事業に取り組む。非常勤。

理事 秋山 慎一郎

秋山電気設備 代表

社会福祉施設における電気工事の実績多数。学校のPTA会長の経験から、子どもたちが抱える課題の解決に心を砕いてきた。みかん箱では安全・安心の施設作りに取り組む。非常勤。

理事 曾我 直人

株式会社ヒトココチ 代表取締役

一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン 代表理事

学童クラブひのてんを含め、市内3か所の放課後児童クラブを運営。子どもたちが本当に面白いと感じるできごとを探求してきた。みかん箱では教材・プログラム開発に取り組む。常勤。

過去の事業経験

事業に関する資格や知的財産権等

特になし

取扱商品・サービス

(取扱商品・サービスの内容)

- カルチャーセンター臥牛館（函館市末広町9-9）における、学びの探求塾「みかん箱」の運営
- 少人数制で、楽しく子どもの学ぶ力を育み、授業理解の手助けを行う
- 子どもに、本来の勉強の楽しさを味わってもらいたい！ という方におすすめ
- 2023年4月から日本財団「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの開設と運営と車両整備事業（1年目）を実施

(セールスポイント)

- ①少人数制、②授業理解、③楽しさ実感、④比較からの解放、⑤じっくり考える力
- 元教諭、海外留学経験者、音楽実演家など、ユニークなスタッフが授業を行う
- 地域資源（函館山、緑の島）や人材（大学教員等）を活かした体験・偶発的な学びを実現

(販売ターゲット・販売戦略)

- 函館市立青柳・弥生・あさひ小学校の児童
- 学童クラブ「ひのてん」に通所する児童
- ユニークな学習塾を求めている保護者
- 授業についていけないなど、課題を抱える児童生徒の保護者
- 対象は小学生から中学生まで（子ども第三の居場所は高校生まで、大人も利用可）
- インターネットおよび口コミ、チラシによる募集

(競合・市場など法人を取り巻く状況)

- 進学塾とは異なり、子どもの居場所となる時間と空間（機能）を提供する
- アフタースクール（小学校における放課後の学習支援）とは異なり、教科書以外の題材も扱い、学ぶことの楽しさを実感してもらう
- 図書館、公共施設の学習スペースとは異なり、落ち着いた学習環境で、その児童にあわせた学習支援（必要に応じて生活に関するアドバイス）を行う
- 既存の施設や事業とは異なるポジショニングにより、新しい市場を生み出す

取引先・取引関係等

(販売先)

- 個人
 - シェア：100%
 - 掛取引の割合：0%
 - 回収・支払の条件：当月の会費を当月末まで

(仕入先)

(外注先)

- 特になし

従業員

- 常勤役員の人数：1人
- 従業員数（3か月以上継続雇用者※）：3人（うちパート従業員2人）
※創業に際して、3か月以上継続雇用を予定している従業員数
- 人件費の支払：末日締め翌10日支払

事業内容

●組織基盤の強化

- マネージャーとなる正職員および支援スタッフとなるパートタイマーを採用する
- ボランティアスタッフ（主に大学生）を募集する
- 電話やインターネットなど、基本的なインフラを整備する
- バックオフィス業務についてはクラウド技術を導入し、組織運営の効率化を図る
- クラウドファンディング、寄付会員・みかん箱基金・広告協賛の募集その他の資金調達を行う

●学びの探求塾「みかん箱」

- 株式会社ヒトコチから、既存の連携先を含めてそのノウハウを引き継ぐ
- 2024年2月1日から、子ども第三の居場所コミュニティモデルの運営事業に合流する

●日本財団「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの開設と運営と車両整備事業

- 開設事業ではカルチャーセンター臥牛館建物内外の改修工事を行い、子ども第三の居場所にふさわしい拠点づくりを行う（予算42,861千円・2024年3月まで）
- 運営事業では2024年2月1日に子ども第三の居場所を開所しその運営を行う（予算1,190千円・同）
- 車両整備事業では子どもの送迎に必要な軽自動車を購入する（予算2,444千円・同）
- 年度の関係上、2月から3月までを子ども第三の居場所のプレオープン期間と位置づけて、会費の免除を含めて多くの方々に利用してもらい、宣伝活動を行う
- 2024年4月1日から子ども第三の居場所「第1期生」の活動を始める
- 事業の内容については、みかん箱通信を発行してその周知を図る
- 2024年度子ども第三の居場所運営事業（2年目）の申請を10月末日までに行う

借入状況

借入先名	使いみち	借入残高	年間返済額
個人	事業（運転資金）	200千円	0円

必要な資金とその調達方法

必要な資金		見積先	金額	調達の方法	金額
設備資金	店舗、車両など（内訳） ・建物の改修 ・外構の改修 ・通信設備工事 ・備品の購入 ・車両の購入		45,305千円	自己資金	0円
				友人知人等からの借入	0円
				金融機関からの借入	0円
				基金の募集	0円
運転資金	商品仕入、経費支払資金など（内訳） ・人件費 ・消耗品費		5,009千円	その他（内訳） ・事業収益 ・日本財団「子ども第三の居場所」助成金※	50,791千円
合計			50,314千円	合計	50,791千円

※前期に受領済のものを含むが、前期の収支予算にその額を計上していなかったため、本書および当期の収支予算に一括して計上することとした（設備資金も同様）

事業の見通し（月平均）

		創業当初	軌道に乗った後 （2025年9月頃）	積算根拠等
収益①		708千円	730千円	2026年4月からの年間収益 ・補助金または委託費2,800千円 ・寄付金収入1,200千円 ・会費等事業収入3,618千円（会員数60人）
事業原価②		0円	0円	
経費	人件費	426千円	560千円	
	家賃	0円	0円	
	支払利息	0円	0円	
	その他	213千円	150千円	
合計③		639千円	710千円	
正味財産①-②-③		69千円	30千円	